

EUPHONIUM

ユーフォニアム

脱！モコモコ奏法のススめ(その1)



◆出身 愛知県立新川高校、愛知県立芸術大学、ノーステキサス大学院ジャズ科に3年間在籍
◆所属 チューバマンショー、名古屋ウィンドシンフォニー、鬼頭 哲 ブラスバンド
◆趣味 バイクで行くおいしい蕎麦の旅
◆血液型 B型
◆星座 てんびん座
◆読者にひとこと 冒険にでかけよう！
◆手紙の送り先 tterukina@gmail.com

一般的に、ユーフォニアムの音のイメージというのは「柔らかくて優しい」ですが、これとセットで「モコモコしていて目立たない」という印象もついて回っているようです。

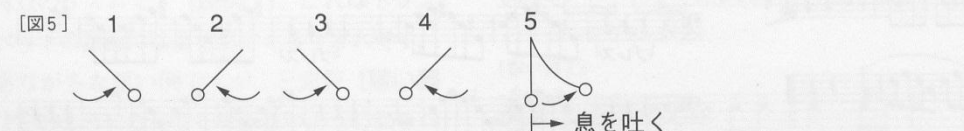
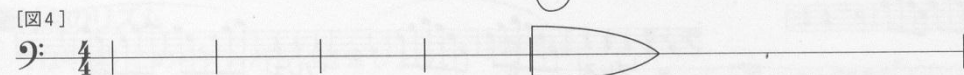
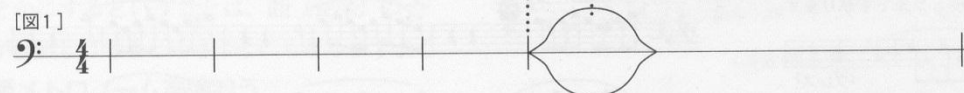
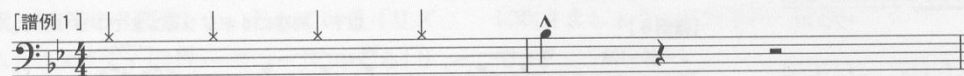
これはユーフォニアムという楽器のせいではなく、

- 「音が楽器から出るタイミング」が意識できていない
- リズムを感じていない

ということに主な原因があります。特に、ドラム等のリズム楽器が入るジャズやポップス系の曲でノリ遅れがちなユーフォニアム。今回と次回では、この「タイミングとリズム」についての話をします。

■音が出ているタイミングを知る

合奏中、自分はタイミングよく吹いているつもりでも、前で聞いている人には、自分より後ろにいるはずのスネアドラムの音の方が早く到達してしまっていることがよくあります。先生に「遅れている」「音の出だしがハッキリしていない」などと何度も注意された経験はないでしょうか。



たとえば、目の前にメトロノームを置いて【譜例】を吹いてみると、実際には【図1】のようなことが起こっていて、これがその「ズレ」の原因になっています（A=息を吹き始めたポイント/B=聞いている人が音として認識するポイント）。

音がこのような形で出てしまっている理由は、ズバリ「吹き始めの息の量が少ない&スピードが遅い」からなのですが、人間の体には、息を一気に出してしまわないような機能が備わっていて、本来は誰にでも起こっていることです。ただ、ユーフォやチューバなどの「管が太くて大きな金管楽器」では、特にこの点に注意しないとイケません。

それでは、この「ズレ」を修正するにはどうしたらよいでしょうか。選択肢としては、

- ①息を出すタイミングを前倒しする
（【図2】）
- ②強くタンギングして「ッペーッ」と吹く
（【図3】）
- ③Bのポイントで出ている息をいきなり出す
（【図4】）

という3つがあります。

①の方法は曲のテンポ感とズレた息の吐き方をするので現実的ではありません。②は客席には破裂音だけが届いていて音程は聞こえず、また、様々なスタイルの曲に対応できません。

正解は③。必要な量の息を必要なスピードで、かつ正確なタイミングで出せるようになることが脱モコモコの秘訣です。

■簡単な練習方法があるので実践してみましょう

まず、A4判の紙を顔の前に3センチほど離して持ち、そこに【譜例】を吹いているつもりで息を「フッ」と吹きかけてみてください。紙が「ふわり」とゆらぐようであれば、それは息を徐々に出してしまっている証拠です。かわりに、紙を指で弾くような「ピンッ」という音が出ていれば、思い通りのタイミングで音が出せるような息が出ています。

なかなかうまくいかないという人は、ブレスのときにかかとを上げて息を吸って、一気に脱力しながら、かかとをドスンと落として息を吐いてみてください。小さくジャンプしてしまってもよいでしょう。息が一気に吹き出す様子を確認してみてください。

さらに、目の前に演奏している曲と同じテンポで揺れている大きな振り子を想像して、この振り子の動きとブレスのタイミングを合わせることも効果的です（【図5】）。曲想がPになったからといって「そぉ〜っ」と吹かずに曲のテンポに合わせて、小さく振られた振り子に合わせて呼吸をしましょう。

必要な量の息がきちんとタイミングよく出せるようになると、タンギングなしでもスネアドラムと同じタイミングで客席に音を届けられることができます。

次号ではさらにリズム感について触れていきたいと思えます。